



碧南ロータリークラブ週報

第2537回例会 平成23年3月2日(水)

- 会長 奥田 雪雄 ● 幹事 新美 宗和 ● 会場監督 伊藤 正幸
(SAA)
- 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
TEL <0566> 41-1100 FAX <0566> 48-1100
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 新美雅浩・鈴木健三・西脇博正・菅原 優

2010-2011年度 国際ロータリーのテーマ



● 齊唱

国歌「君が代」
ロータリーソング「奉仕の理想」

● 四つのテスト唱和

● 本日のメニュー

和風弁当 大正館

● 本日のお客様

西尾RC 本多 淳君



新入会員 大川 隆雄君

新入会員入会式

新入会員 大川 隆雄君

会長挨拶

今までのボカボカ陽気と異なり寒のもどりでしょうか、真冬なみの気温（寒さ）であります、～美しい暦のことば～より

この時季、小さな芽が土の中や木の幹からちょこんとのぞいているのを見つけることがあります。草木が芽を出しあげることを、「下萌え」「草萌え」といいます。

この芽が成長していくまでには、まだまだいろいろなことがあると思います。

それは、私たちの心に芽生えたささやかな夢や想いと同じであります。

明日は三月三日、雛祭り（桃の節句）です。

旧暦ではだいたい一ヶ月ほど後にずれますので、ちょうど桃の花が咲き乱れているころになります。

昔は花が咲くことを「笑う（わらう）」とか「笑む（えむ）」といったそうです。人の笑顔も花の笑顔も、ぱっと周りが明るくなるところが似ています。

「雛祭り」は、日本の伝統を衣装と共に伝える貴重な風習であります。季節の移ろいを意識し、折々の花を飾ったり、季節の食物を食しながら健康や幸福を祈るのがお節句のこころであります。

ところで私事ですが、三月六日は孫の三才の誕生日、お祝いしてやりたいと思いますが、着物を着るのをとても嫌がり、泣き喚びます。

稚児行列。長田豊治くんのせっかくの誘いにものれません。家族を含め何千人もの人が、町内を練り歩いてまいります。棚尾のまちづくり委員長としては、町の賑わいを願いつつ、喜んでおります。



奥田雪雄会長

幹事報告

- ・他クラブの例会変更等は別紙幹事報告の通りです。
- ・国際ロータリー日本事務局より詐欺に関するメールが届いています。最近ロータリアンを狙った悪質な詐欺メールが送られているとのことで、国際ロータリー日本事務局より個人宛に寄付を要請するメールを送ることはないとのことであり、万が一あった場合はお知らせ下さい。
- ・本日例会終了後理事会を開催致します。



新美宗和幹事

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数72名(内出席免除者16名の内出席者11名)出席者61名	
出席対象者 61／67名	出席率 91.04%
欠席者11名(病欠者1名)	前々回修正出席率 100%

〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

- 中山 寛三君 } へきなんデザイン文化賞を中山従天医館が受けました。有難うございました。
中山 寛紀君 }
- 黒田 昌司君 新入会員を紹介させて頂きます。
- 奥田 雪雄君 衣浦グランドホテル支配人澤さん、このたび、和食料理長が千葉市の幕張メッセで行われます技能グランプリの日本料理部門に愛知県代表として初出場されること、お喜び申し上げます。
- 清澤 聰之君 2月23日に碧南ロータリークラブより棚尾小学校様に記念植樹を致しました。校庭に立派な庭園ができました。多くの方に出席頂きまして、無事に役目がはたせました。ありがとうございました。
- 石川 唯司君 孫娘が希望する高校に無事合格することができました。ありがとうございました。
澤 徹君 今日朝刊に衣浦グランドホテル近藤板長が全国大会出場の記事が出ました。本人も大変喜んでおり、頑張って来ると言っています。応援よろしくお願ひ致します。
- 堀 敦君 本日はつたない卓話ですが、よろしくお願ひします。
栗山 章君 本日卓話でお話させて頂きます。つたない話で恐縮ですが、よろしくお願ひします。

〈親睦活動委員会〉

会員誕生日

2日 杉浦 保子君 15日 小笠原良治君 16日 黒田 泰弘君 20日 平松 太君
22日 栗津 康之君 24日 菅原 優君

奥様誕生日

1日 寺尾 政記君の奥様加代美様 3日 寺尾 正史君の奥様広美様
9日 西脇 博正君の奥様京子様 10日 犬塚 敦統君の奥様清子様
13日 奥谷 弘和君の奥様由紀子様 24日 小笠原良治君の奥様恵子様
29日 大竹 密貴君の奥様弥生様

結婚記念日

16日 長田 和徳君・真由美様 20年 20日 平岩 辰之君・範江様 28年
27日 加藤丈太郎君・美恵子様 48年

入会記念日

2日 大川 隆雄君	3日 小林 清君	3日 杉浦 保子君	3日 鈴木 宏枝君
5日 山中 寛三君	11日 石川 春久君	15日 杉浦 求君	15日 鈴木 敏弘君
15日 平岩統一郎君	18日 鈴木 並生君	25日 菅原 優君	

卓話

「私の履歴書」 新入会員 堀 敦君

東海東京証券碧南支店の堀敦です。

本日は私の履歴書という卓話の機会を頂きましてありがとうございます。
つたないスピーチですが少しの間、ご辛抱をお願いしたいと思います。

さて、履歴書ということですので順序どおり話しをしていきますと、わたくしは昭和41年2月14日、名古屋市の熱田区で堀家の長男として生まれました。兄弟は私の一つ上に姉、四つ下に弟という三人兄弟でした。実家が熱田神宮の近くということもあり、初詣はもとより自分のお宮参り、七五三、成人式、結婚式はすべて熱田神宮で済ませることができました。また、私の子供のお宮参りも七五三もすべて熱田神宮で済ましております。



子供の頃の私はどんな子供であったか思い起こしてみましたが、小、中、高校と特にこれといった特徴もないどこにでもいる平凡な子供でした。中学に入学し剣道部に入部しました。来る日も来る日も練習に明け暮れ、家ではテレビのプロレス中継を毎週楽しみにしていた平和で、平凡な毎日を過ごしておりました。そんな平和で平凡な堀家にも私が大学一年生の時に悲しく、忘れられないことが起こりました。

それは・・・私のひとつ年上の姉が病気で亡くなってしまったのです。弟の私にやさしく、もの静かで、色が白く、勉強ができる自慢の姉でした。子供の頃の姉の思い出は、いつも夕飯の時間になると、公園で遊んでいる私を「ごはんだよ。帰ろう」と呼びにきてくれた光景と姉の声は今でも耳に残っています。私は悲しくてもう一生分の涙をながしたくらい泣きました。そのせいかあれ以来たった一度も涙は出なくなりました。成人式を直前にして姉が亡くなったことは家族に暗い影を落としました。特に母はショックで毎日悲嘆にくれ、そのうちほとんど寝込んでしまうようになってしまいました。

ある日のこと私がアルバイトから帰ってくると、父と母が喧嘩しているような声がきこえました。こんなことは初めてで今まではもちろんのこと父と母が喧嘩したことは見たことがなかったので、びっくりして何があったのか父に尋ねましたが父は何も言いません。

何があったか母に訊くと母が涙声でいいました。なんで、子供が三人もいるのにお姉ちゃんじゃなきゃいけなかったのかと。私はそれを聞いてすごくショックを受けました。

ちょうどその頃、初めて車を買った私は、車のローンを自分で払うため今までよりもたくさんアルバイトをするようになりました。昼間は大学に行き、夕方からは当時流行っていたカフェバーでバーテンダーのアルバイトをするようになりました。深夜2時過ぎまで働いていたときもありました。ときはバブル真っただ中、店も忙しく仕事が終わってから遊ぶようになってからは大学も休みがちになり、家にもほとんど帰らなくなりました。カフェバーのオーナーからは学生のアルバイトでありながら、バーテンダーの筋が良いからと、お店の仕入れまで、ほとんど任されるようになりました。意外な特技の発見に私はこのまま、大学も辞めバーテンダーをやろうかなとも思うようになりました。

そんな私が証券会社に就職するようになったきっかけは店のカウンターに来ていた常連の証券会社の営業部長の話をきいたことからでした。もうどんな顔をした人だったかということも思い出せませんが彼のその時の言葉は覚えています。「日本経済はどんどんよくなる。近い将来アメ

リカのGDPにせまる勢いになるぞ、株はおもしろいぞ」と言われました。何度も申しますがその頃はバブル最盛期でした。

その後、数人の友人の協力のおかげで大学の単位もすべて取得の見込みもつき就職も東海東京証券の前身である丸万証券に内定し、長くお世話になったバーも辞めてめでたく大学を卒業。昭和63年4月、256人の同期が入社しました。仕事は順調でした。日経平均は翌年の平成元年12月29日の38,915円87銭の高値をつけるまでは毎日のように上昇。株と土地への投機がますます盛んになりました。なかでも「土地は必ず値上がりする」といういわゆる土地神話に支えられ、転売目的の売買が増加し、地価は高騰、数字の上では東京23区の地価でアメリカ全土を購入できるといわれるほどとなりました。資産価格高騰は資産保有者に含み益をもたらし、心理的に財布のひもを緩める資産効果によって消費が刺激され、バブル景気の過熱感をますます高めることになりました。週刊ポストは日経平均50,000円だとはやしバブル景気に日本中がよっていました。

しかし、イラクのクウェート侵攻に伴ういわゆる湾岸戦争と原油高や公定歩合の急激な引き上げが起こった後の1990年10月1日には一時20,000円割れと、わずか9ヶ月あまりの間に半値近い水準にまで株は暴落しました。いわゆるバブル崩壊です。毎日のように下げる株、人間の欲と責任のなすりつけ合い人間不信やノイローゼになって会社を去っていく同期、急性の胃潰瘍になって一晩で胃に穴があいた先輩。こんなはずじゃなかったと誰しも思いました。

1997年には山一証券自主廃業、三洋証券がつぶれ当社も風前の灯(ともしび)でした。とても言葉にあらわせないような修羅場を経験しました。ただ、その時の経験が今となっては自分の血となり肉となって身に付いたような気がします。256人いた同期入社はみんな会社を去っていく今では十分の一以下の20人しか残っておりません。平成19年10月に41歳のときに大垣支店の支店長に任命され昨年の4月からは碧南支店の支店長を任されております。自分に厳しく人にも厳しくをモットーに日々職業奉仕しております。

プライベートでは平成5年に27歳で結婚し今年で結婚18年目になります。二人の子供にも恵まれました。長女は今年15歳、長男は12歳になります。今日のこのネクタイは昨年の父の日に子供たちが二人でお金を出し合ってプレゼントしてくれたネクタイです。最近は大事なことがあるときだけ締めるようにしています。

自分が親になってみて思ったことは、親にとって自分より先に子供を亡くす苦しみがどれだけ辛いことであったのかということです。あの時の母の気持ちを理解しなければ受け入れなければ、という気持ちになったことです。長年続いた母親との確執も氷山がとけるようにしだいにとけていきました。最近の堀家の不思議は、長女が日に日に亡くなった姉の年齢に近づくごとに面影も性格もしぐさも似てきてていることです。父も母もたいへん驚いております。

最後に私が大学の卒論で研究した中国古典の十八史略から私の人生の座右の銘を結びの言葉とさせていただきます。

中国の十八史略にこんな言葉があります。「人生は白駒(はつく)の隙(げき)を過ぐるが如し」はつくというのは白い駒と書いて白い馬という意味でげきというのは戸の隙間という意味です。つまり人生は、戸の隙間から白馬が通り過ぎるのを見るように、辛いことも楽しいこともほんの一瞬のことにつかない人生いうものは短いということを語った意味です。人の人生はせいぜい長生きしたって百年にたらず、幸い人より長く生かされているのであれば生きたくても生きることができなかつた人に比べればしあわせなこと、美味しいものを食べて、好きなことをして楽しく生きたいと願うばかりでなく、今日を一日ムダに過ごすことへの恐れというものをもたなければならないという意味です。

「人生は白駒(はつく)の隙(げき)を過ぐるが如し」

今日はどうもありがとうございました。

「私の履歴書」 新入会員 栗山 章君

生まれたのは信州、長野県の諏訪です。もともと父の在所が下諏訪町にあって、山梨の韮崎から母が嫁いできて諏訪市に居を構えました。

諏訪はご存知の方も多いと思いますが、諏訪湖を中心山に囲まれた盆地で、冬寒くて夏暑いのですが、湿度がないので四季を通じて大変爽やかな良い所です。諏訪湖の標高が758(名古屋) +1で759m、愛知県から見ればかなりの高地になります。



四方を山に囲まれていますが、東南側には八ヶ岳が連なり、晴れた日はそのずっと先に富士山が遠望できました。大学に入って上京した時、周りに山がないので何となく落ち着かなかったことを覚えています。霧ヶ峰、車山、蓼科、白樺湖といった高原にも車で30分程で行けます。

先ほども申しましたが、夏は今でも30度まで上がりかなり暑いのですが、湿気がないので不快指数が低く爽やかです。高校を卒業し家を出るまで、家にも車にもクーラーやエアコンの類は付いていませんでした。ほとんどの家庭がそうだったと思います。お金が無かったのかもしれませんのが苦にはなりませんでした。

厳しいのは冬です。私がいた頃は氷点下15℃なんてのは、ざらでした。ときには氷点下20度にもなって、北海道とかでしか見られないはずのダイヤモンドダストが舞った時もありました。

当然諏訪湖も凍ります。氷の厚さが40cmにもなって、よくスケートをしました。父の話では、戦時中戦車が凍った諏訪湖を渡って行ったそうです。

言い忘れましたが、諏訪といったら温泉です。街中いたるところに温泉が湧き出ていて、毎日のお風呂は市営の共同温泉浴場を使っていました。従って高校まで自宅にはお風呂がありませんでした。ちなみに私が大学の頃もとの実家からそう遠くない所に家を新築して引っ越したのが現在の実家なのですが、そこにはお風呂があります。ただし温泉です。市と1時間当たり何リットルでいくらという契約をして、温泉を貯めるタンクを備えて家で使うお湯、お風呂だけでなく台所の洗い物なんかも全て温泉でまかなっています。子供たちも私もこの温泉が実家に帰省する一番の楽しみです。

冬の寒さの話を書いていて話が横道にそれましたが、昔共同浴場に通っていた頃は、お風呂で濡れて絞ったタオルを帰り道で2~3回ぐるっと回せば凍って固まって、それで妹とチャンバラができるくらいに寒かったです。

諏訪地方は、戦前は養蚕と製糸産業が盛んなところで、女工哀史や野麦峠の舞台になった土地です。製糸業で一代を築いた片倉財閥というのがあって、そのお屋敷が市に寄贈され現在諏訪湖のほとりに片倉会館として観光スポットになっていますが、千人風呂という大浴場があって知らないで入るとビックリするのですが、深さが1mくらいあって大変深い。立って入るお風呂なのです。大勢の女工さん達が長湯をしないようにと作られたようです。

また諏訪は大河ドラマに時々出てきますが、戦国時代に武田信玄に攻められ支配された時代がありました。諏訪氏(諏訪頼重)の娘で、湖衣姫とも由布姫とも言われている美しいお姫様が、諏訪の血を残そうと仇である武田信玄に嫁ぎ勝頼を生んだ物語が有名ですが、その頃から諏訪と母の生まれ育った甲州は縁が深かったのではと勝手に思っています。

少し両親の話をさせていただきます。父も母も偶然でしょうが8人兄弟の末っ子で、母の名前は留子というくらいです。ともに実家は農家でしたが、家業を継げるはずもなく必死に自分たちの力で生計を立てていたようです。

父は昭和7年生まれ、終戦時は13歳で中学を出てすぐに働きに出たそうです。ほんとは大工になりましたが、就職したのは中部配電、今の中電の前身です。この父の影響もあって私も中部電力に入社したというわけです。

父の記憶は、電柱に登って作業している姿や、雷が鳴ると夜中でもバイクで飛び出して行って、停電の修理をする姿ですね。とても面倒見がよくて性格も明るい素晴らしい父親だと思っています。母も共働きで家の近くの病院で準看護師としてずっと家計を助けていました。母も優しさと厳しさを兼ね備えたしっかり者の母だと思います。ちなみに母の自慢は、出身高校が堺崎高校で、サッカーの中田(英)を輩出していることだそうです。

■小中学校時代

小学校は高島城の近くにある城南小学校。とにかく遊び好きで、放課後三角ベースで野球をやったり、仮面ライダーごっこをしたり、鉄棒で大車輪をやろうとして落ちて顔面擦り傷だらけになったり、そのくせ勉強は割と出来てクラスのガキ大将的存在だったと思います。今と違い先生にはよく引っ叩かれました。理由は忘れましたがとにかくよく怒られて、そのくせ先生は大好きでしたね。

中学校は霧ヶ峰への登り口にある諏訪中学校でした。ミュンヘンオリンピックの男子バレーボールの金メダルに感動して、部活はバレー部に入り、それこそ熱中してやりました。結果として高校まで続けましたが、高校では身長のハンデが大きくて通用しませんでした。

中学では3年生の時に生徒会の副会長に選ばれたのですが、優秀な会長と女子の副会長がしっかりしていたので、何をやったのかほとんど記憶ないです。

■高校時代

高校は公立の諏訪清稜高校でした。諏訪地方では進学校でしたが、旧制中学でしたのでその伝統がしっかりと残っていて、とにかくバンカラな校風でした。校歌が第一校歌と第二校歌があって、それぞれが10番まであり、それを手拍子で歌うのです。ピアノ伴奏なんて洒落たものはありません。時間があったらご披露したいのですが、全部で15分くらいかかりますからまたの機会にさせていただきます。野球部が甲子園に出て、皆でこの校歌を歌うのが夢でした。

清陵のすぐ近くに二葉高校という女子校がありまして、日ごろから交友したり比較的仲が良かつたんですが、3年の学園祭の時、両校同じ時期にやっていて、仲間とちょっといたずらに行こうという話になって、夜中に二葉高校に入り、正門近くの等身大の裸婦のブロンズ像を、白いペンキで、真っ白にした上、ブラジャーとパンティーを張り付けて帰ってきました。

翌日、放送で「ファイヤーストーム委員の栗山君」と呼び出されまして、学園祭の実行委員会室に出向いたところ、二葉高校の実行委員長以下3人ぐらい待っていました、目を剥いて抗議を受けました。なんで自分だってわかったのか聞いたところ、「こんなことするのは栗山ケンぐらいしかいないわ!」と一喝され、まっ しょうがないなと…

その足で、すぐにくだんの裸婦像のペニキ落としに行ったのですが、下着をベリベリ剥がしているのをたまたま二葉に通っていた妹に見つかり、大いに呆れられました。

まあ高校時代はそんな感じです。

■大学時代

大学は、国立も受けたのですが、結局慶應しか受かりませんでしたのでそこに決めて、初めての一人暮らしを東京で(厳密に言うと横浜市になるんですが)始めました。

大学は、工学部で機械工学科を専攻しましたが、勉強は本当に要領だけよくて、テスト前に一夜漬けで友達にノート借りたり、先輩のレポートを拝借したりと単位を落とすこともなく無事卒業できました。

で、4年間何をやっていたかというと、バレー部をあきらめて、漫画の「エースをねらえ!」に憧れて入部したテニス部と、麻雀です。テニスは一応体育会で関東理工系リーグに所属し、チャラチャラしていない真面白なクラブで、結構一生懸命に練習し3年からはレギュラーになって、2部リーグから1部リーグに昇格したのが思い出です。ただし、4年生の時はアルバイトで女子大

のテニス部のコーチをしてましたけど…

■会社に入って

そして昭和57年に中部電力に入社しました。ノンポリの学生で特に希望就職先というのになかったのですが、先ほど申しましたように、父から中部電力を勧められたのが決め手で入社しました。会社では一貫して火力部門で仕事をしてきました、特に新規発電所の建設関係の仕事が一番長いです。20数年前に碧南火力の1・2号建設で4年間碧南の建設所に勤務しており、今回は出戻りでございます。

皆様良く御存じの三田会長ですが、今から26年位前、私が初めて本店に勤務した時の直属長でした。当時から懐が大きくて、自然と人が集まつくるすごく魅力のある方でした。この5月に中経連の会長に就任されますが、その前に一度ロータリーの卓話にお呼びするよう石川さんからリクエストをいただいておりまして、引き続きお願いしていこうと思っております。

■家庭生活

結婚は、入社して7年目29歳の時、まさしく碧南火力勤務時代にしました。妻は、会社のテニスクラブ、で一緒だった当時名古屋支店勤務の女性で、人生で最もテニスが役立った時でした。

子供は男の子ばかり二人、現在大学生の長男と、今度高校入学の次男です。やはり凄く手がかかるので二人で打ち止めにしました。

とにかく家庭は妻に任せっぱなしで飲み会やらゴルフやら、23年間苦労をかけていますが、そろそろ定年離婚にならないよう奥さん孝行しようと気持ちだけはあります。

そんな訳で4月の家族会のルナ・レガーロを楽しみにしている次第です。

以上

次回例会案内 平成23年3月16日（水）

テーマ「未定」

プロ野球評論家 木俣達彦氏